畫圖西遊譚

參

特 7
5
158

伊藤篤太郎記

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158

ガラス使用

伊藤篤太郎記
特7-158

西遊旅譚巻之三

扨長府をるて檀浦(ダンノウラ)より赤間ヶ関に至(下ノ関ト云)長崎の方より玄界灘(ゲンカイナダ)を渡て此港に船をうける人家一里餘を瀬戸口山上(ヒノヤマゼウ)に阿弥陀寺寶物(ホウモツ)多し古法眼画土佐光信檀浦合戦(ダンノウラガツセン)圖其外能登守ノ太刀安徳天皇の御太刀異形(コトナルカタチ)故ゆ図す

十月三日下関より九州の地に渡る時に大風吹出し波濤(ハタウ)高(タカ)し皆人色をうしなふ漸無難にして大裡(タイリ)に着(ツク)此渡大裡ハ一里半小倉ハ三里なり此海中にて次兵衛塚といへるあり秀吉の船頭ナリ引島(ミユ)見る田ノ首(クビ)とも云平家の一門引退きたる島山なり

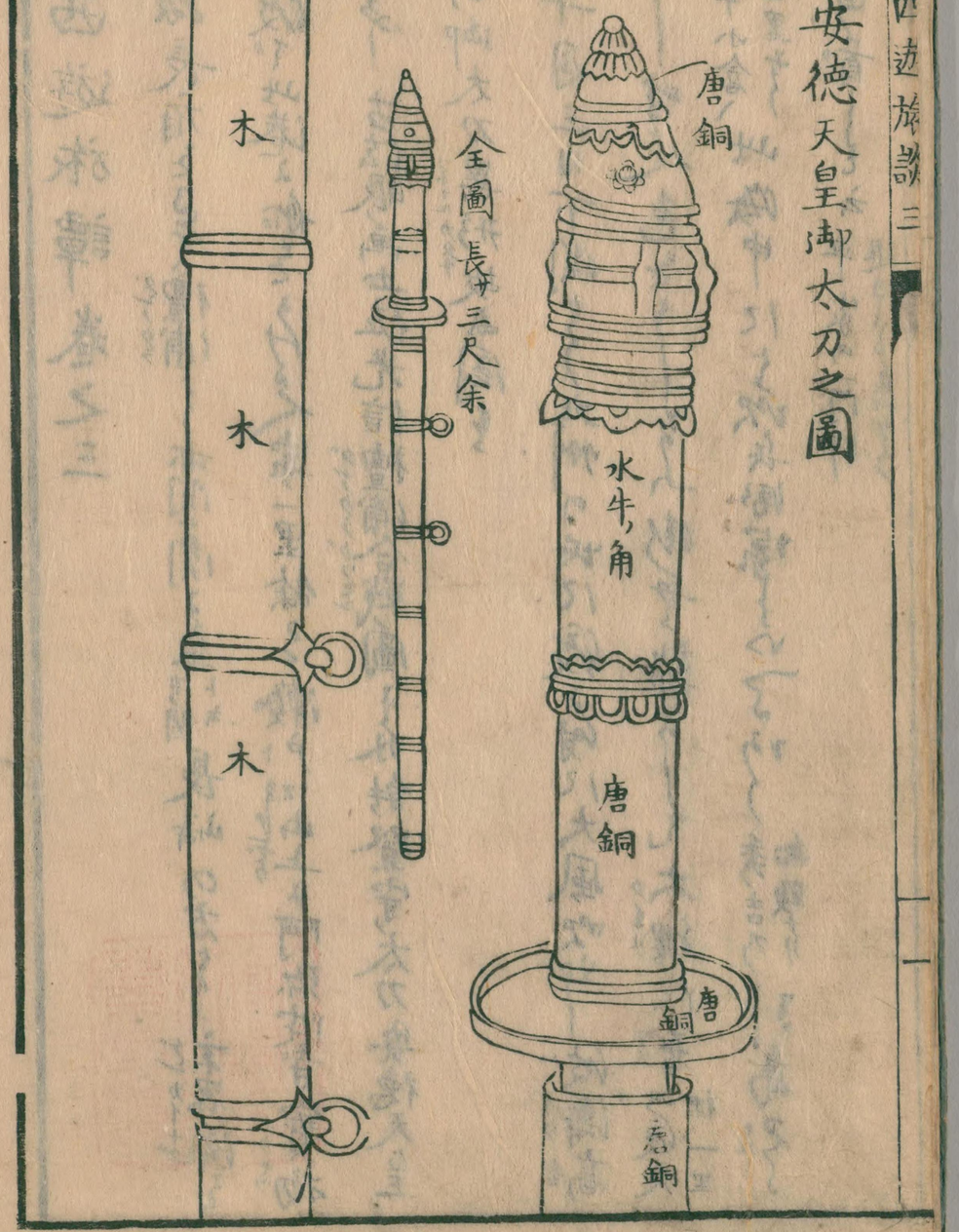
成城大漢福嶋 開根

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

下関ノ圖

阿弥陀寺ヨリ望

安徳天皇御太刀之圖



国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

大里(ダイリ)人家三三町ゟ小倉まで一里半海を左の方ゟ見ゟ小倉乃城ゟゆる則小笠原矦十萬石乃城下ゟて市街(イチマチ)縦横(タテヨコ)ゟ夫ゟ笹前(ササクマ)より地黒崎(クロサキ)の驛(エキ)に名所(メイショ)地ゟ長崎乃方ゟ見ゟ時雨(シグレ)ゟ風雨ゟ東方ゟ十月の小六月ゟて東西風土にまゝ

ひんぷん小屋の漸(セン)飯塚(イイヅカ)の間五里ゟ田邊川(タノベカハ)ゟに鶴ゟ真鶴(ベナツル)白鷺(シロツル)白鶴ハ全體白シ黒鷺(クロツル)小ニシテ黒ノ頭赤シ筑前の地總ゟ平野田(ヘイヤデン)畑に鷺ゟ飯塚ゟ内野より右の方に入田畑ゟすぐゝ

山路ゟゆゝの四里太宰府(ダザイフ)ゟ此路甚乃山中ゟて大石道路(ダウロ)ゟ塞(フサ)ぎ十間(ケン)又ハ五六間ゟある所ゟ天滿宮ゟ

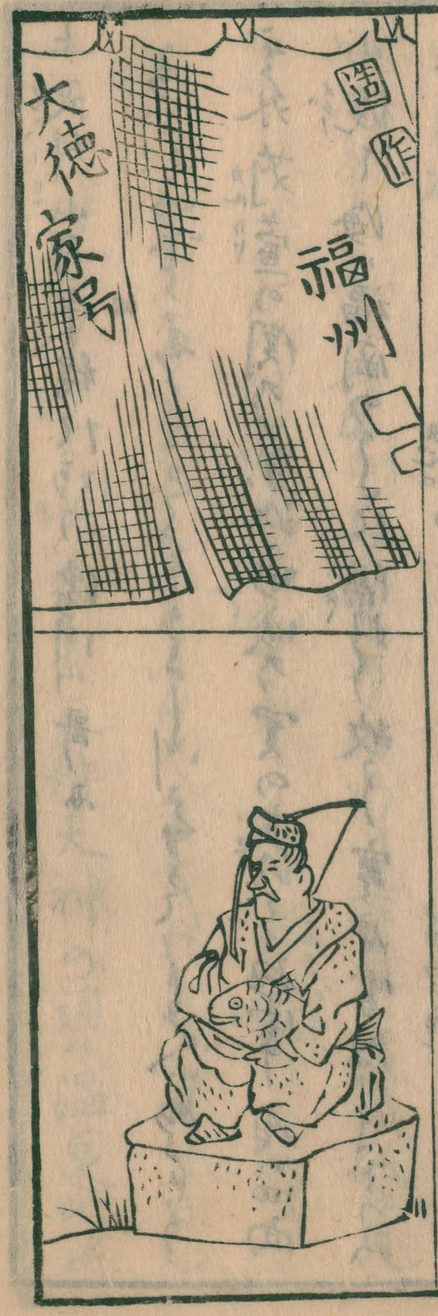
旅館多シ門ゟ入ゟ池ゟ橋三ツ(三橋ハ一云)ゟ過現(スギアラハ)ル山門ゟ入ゟ本社左右廻廊(クワイラウ)にて沖ゟ浮ぶる地ゟ池乃中(ナカ)ゟ大楠ゟ毎年八月廿一日ゟ廿六日ゟ祭禮(サイレイ)ゟ近郷より參詣多ゟ天原山安樂寺ゟ云(寺ニアラズ地名ナリ)岩踏川社乃此の方三里ゟ在(アリ)思川宰府町西ゟ流ゟ川也愛染川(アイゼン)社ゟ南ゟ行ゟ哥にゟ雪ゟ又ゟ降ゟ鉄砲(テッポウ)ゟ行ゟ多川の半ゟ凍ゟ氷ゟ白川ハ宰府町西南に行ゟ哥にゟ雪ゟ降ゟ氷ゟ張ゟ人ゟ渡ゟ者ゟ有ゟ又ハ渡ハ舟ゟ行ゟ渡ゟ舟ゟ博多(ハカタ)へ浴(ミナト)ゟ行ゟ博多ゟ戒壇院(カイダン)観世音寺(博多ゟ四里)観世音寺清水山普門院博多(ハカタ)ゟ

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

なり近し都府樓の跡也又安徳天皇乃殿のあるを先年
此寺本堂乃下なり瓦二枚を堀出し生燒まして赤色伊部
やきのめしとお人の物なりと是都府乃古瓦なり菅
丞相乃詩あり讀見瓦色此寺なり六七町をゆく田乃
中に礎あり方五六尺央り丸柱の象あり總て此處
缺瓦多し表に志爲まぐ裏布目あり陸奥多賀城の瓦
のめし二日市針ありれ處まで見る幸橋のあり
多れもまさ名まさ名ゆけも先年ありしとしたん
四方寺山高橋沼運う城跡とも天拜天神の祠ハ温泉町の

上天拜山乃中程にあり漆川哥ゐ
名まさ以へ是しもそうしかるし川さすがたりける人ハぬるもう
其外苅萱の関乃古跡水城乃実の古跡を掘宰府ハ四面
山繞て海ハ福岡のうしに隔れり故り寒月雪深しといふ
夫なり原田、出て田代、ゆく皆筑後乃高良山見る中
原より青山、行路を是なり十六里又久留米の城見る
有馬侯の城下中春より神崎の皆青鵲多し此所ハ高麗
鳥とも又此處にて索麪をとる作賀鍋島侯の城下城下
町二里餘人家ありて冨商おほし婦人乃髪の風

江戸にて境原と云ふ所にて銭一文を一まへ二文を二枚
と呼ぶ諸ともに異なり此道はしに石乃ゑびすをたて
ある中まへハ寒月雪を積ると二三尺小田に至る此皆
農人の家ごとに暖簾を見るに麁布なり此もの
支那より荷物を包来る莚なり圖のなし



夫より成瀬にある又塚崎へ行ふ路にて嬉野茶ヲ出スより彼木
此皆大山坂にて程なし大村にある十町なり左右家中路の
半に桜を植ゑをるれば大村城下人家續く十月九日市
街戸毎に注連を張香を焚ひてこれを問ふ此地庖瘡
をきらふ此節ニ至る國流行ありて除んがためにて町にてハ
れより舟にて海湾にて小島多し景又佳長井といふる
所を七里舟より行ふ事十餘町時津に至る大村ノ領地りたゞ此
ハ三里鯖腐石道端に里中野村平野村にてどこもその
路常の犬を見ず皆神なり小童多くハ筒袖を着唐人風ニウツル

又石階多し大石に佛を刻それをもて材土と云ふ胡羊豚
雞を畜て長崎市中唐人和蘭に售西坂より長崎を見る
坂を下るに長崎に入し数る留る長崎市中海岸に家を作る
故に石階多し又橋も石にて作婦人は生涯眉を剃ぎ脂に加ふ
輪を以て唐人ノ言語いふし放言いふ左に一二を載ル○バボウ
姉或は娘を○ゴゴ人の妻を○ヲカツサン色情を○相思唐韻ナリ踏
壇石を○キンバ四を○バセウ游里ならば散歩を○ス子フリ番椒
を○コシヤウ物を喫ると○シケンカアジイ是ほどと○コレシ子姉様
を○ヤツト親父を○チヤンしき又言の中に○バツテンしきものを

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

[illegible]風土暖[illegible]月雪[illegible]園中に橙[illegible]植

酢ニ用ユ 瑠璃芋多し 赤白二品有 赤蕪[illegible]大根ハ短[illegible] ケラノ尾[illegible]

西坂より長崎を望
旗を[illegible]紅毛出[illegible]
[illegible]支那船二三艘[illegible]
紅毛船ハ八月港を出て一里を
[illegible]高崎にある
支那人館ハ十善寺[illegible]低[illegible]
[illegible]

山に田畑を
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

支那人館ハ十善寺といへり（寺ニアラズ地名ナリ）中に社稷を祭又関帝堂を帝命を奉て渡海する者古ハ蔡氏中ハ王氏今ハ銭氏の人来る其外十二家なり是を自分一己の交易に渡海を皆蘇州の人也則蘇州ハ日本の大坂のみなき地にして南京第一乃繁栄の所なり今ハ七八艘の渡海にして十二艘を来るべし程赤城といへるの浙江のうち乍浦といふところの人も十五年以前より長崎に来る又方西園といふ者ハ画をなすハ九年以来より渡海を福建の人なり其外周玉禄宋敬庭の数年渡海を

かたいへども書畫を作ざるものなれば其名きこえざるいへ草亭撲庵宮山可亭皆書をなす伊孚九山水の画なり皆此類高賈にして交易の餘暇此技なり日本を商家にても哥俳諧書画を学ぶもの多し是を払ひてし能画能書或文雅を賞するたるべし其うち沈南蘋一人能畫にして画師なり又近年来るなる方西園ハ交易に疎ぬる画をなす多くハ水墨にして着色なし其師也といふ者周西山名ハ選此一人ハ北京の産にして遊歴して南京に留り頃長崎へ来る此者一人ハ文雅の者にして能書畫

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

をたゞ百日をゐるべしと帰帆せ官を避まるもれ南京寺或悟真寺にて度々寂對して書畫を見る又此方とりも画など贈る總て支那人ハ日本人にかつる事なし志ゑるべし似たり雅もまた俗もいつり又顔面日本人のみし只衣裳のみかひいるのみなり

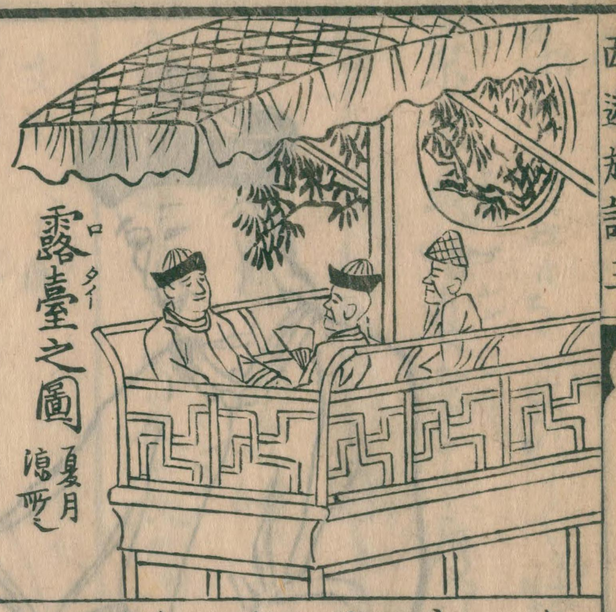
支那人之圖

明亡今ハ清の代となる乾隆五十三年也風俗如圖

頭ハメダリヲ剃テ中ニ髪ヲ置

下人

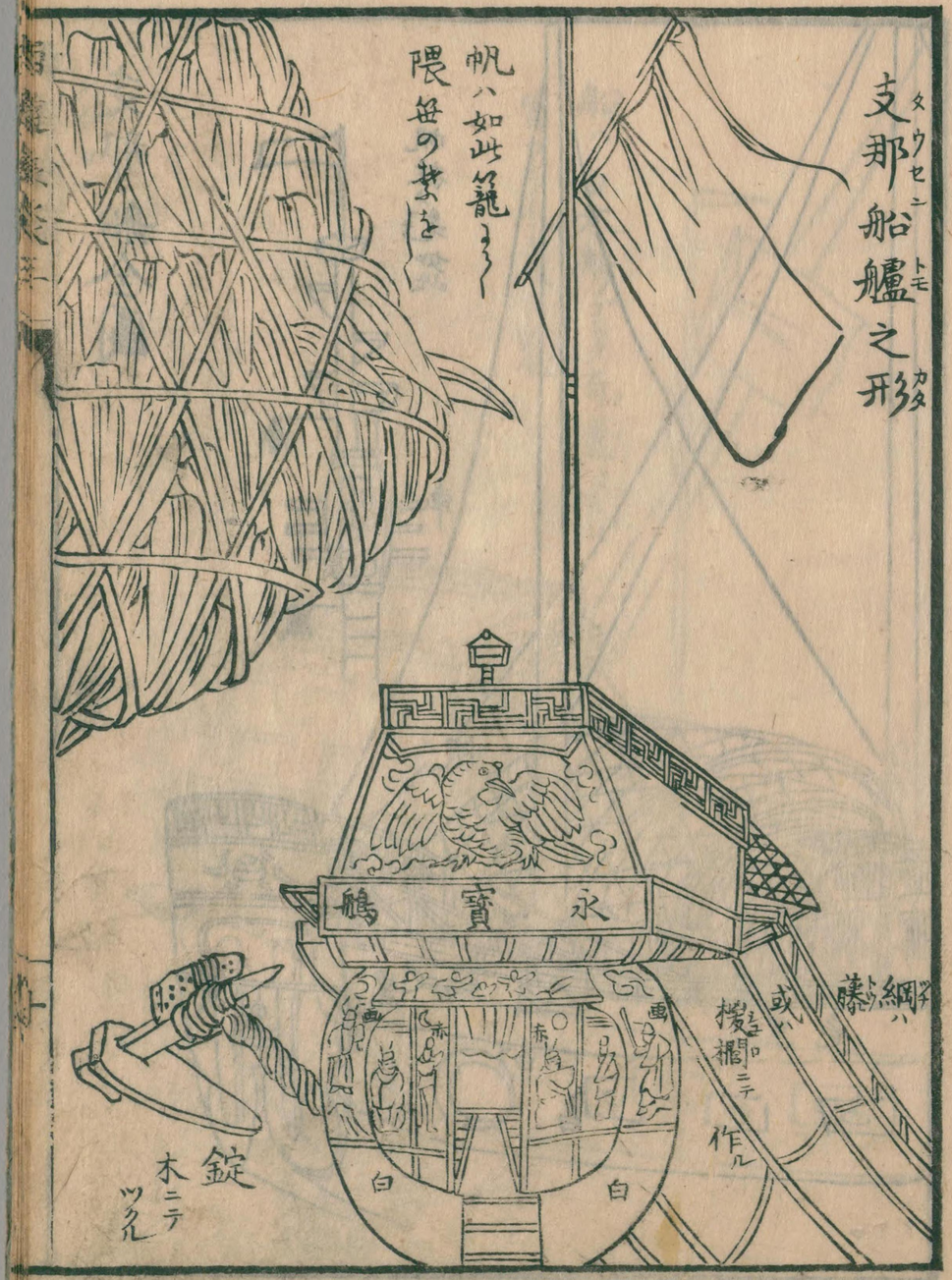
乾隆帝天下を巡狩する事四度歳九十餘とぞ

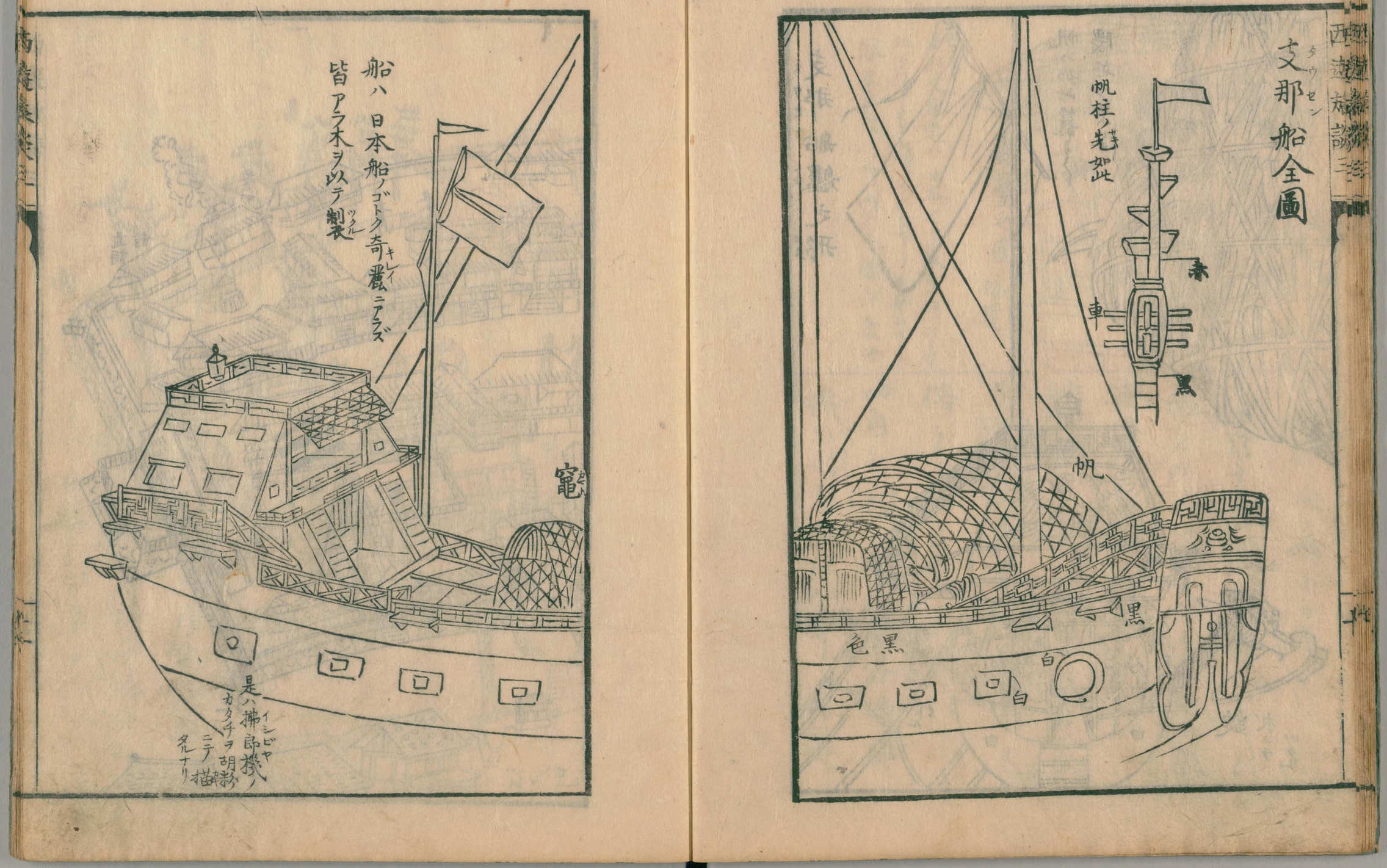


露臺之圖 夏月涼所之

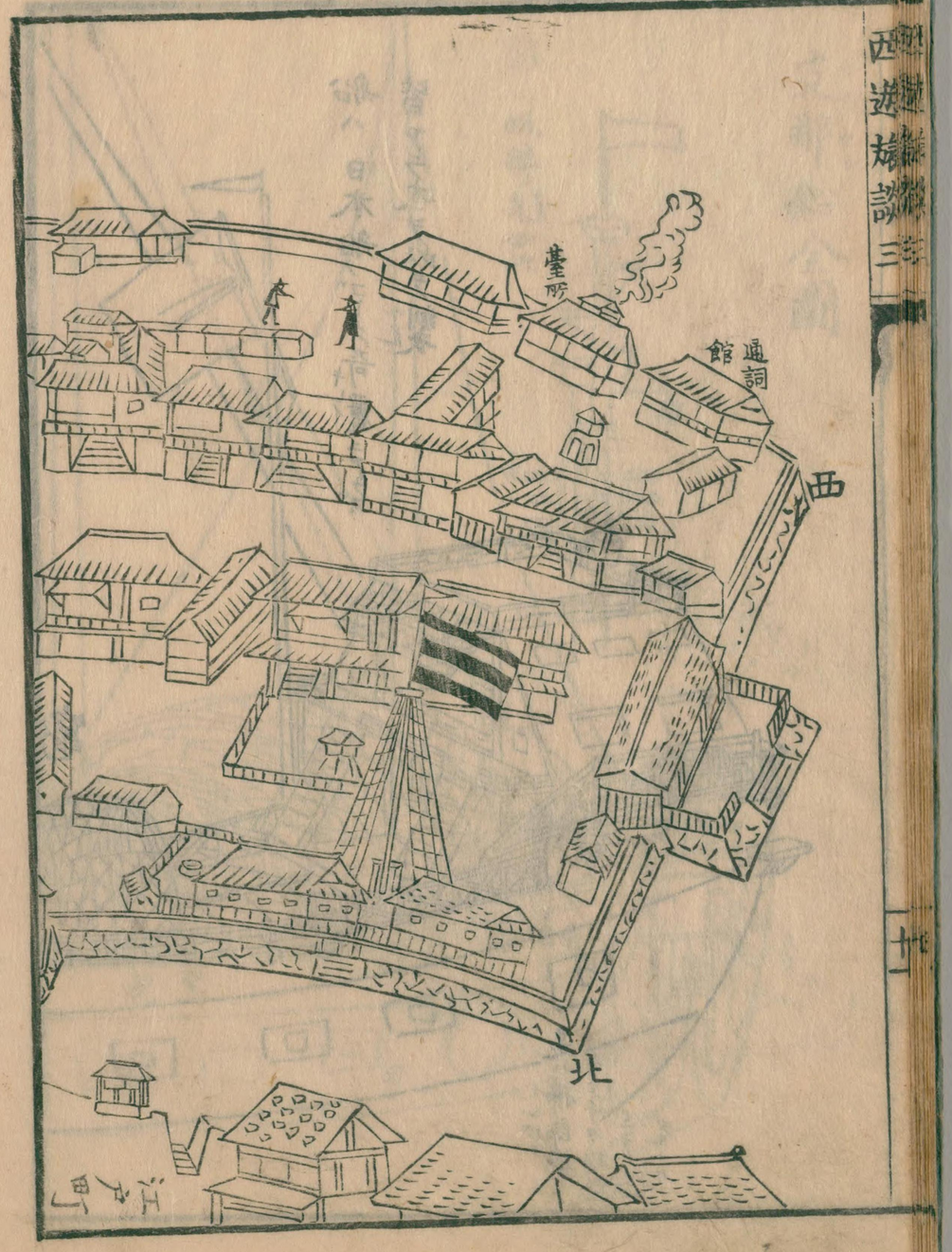
支那人居宅ハ日本より家を作りたす
ならひなる作りなるなし日本のもて
客なとまうくる時ハ毛氈を敷也

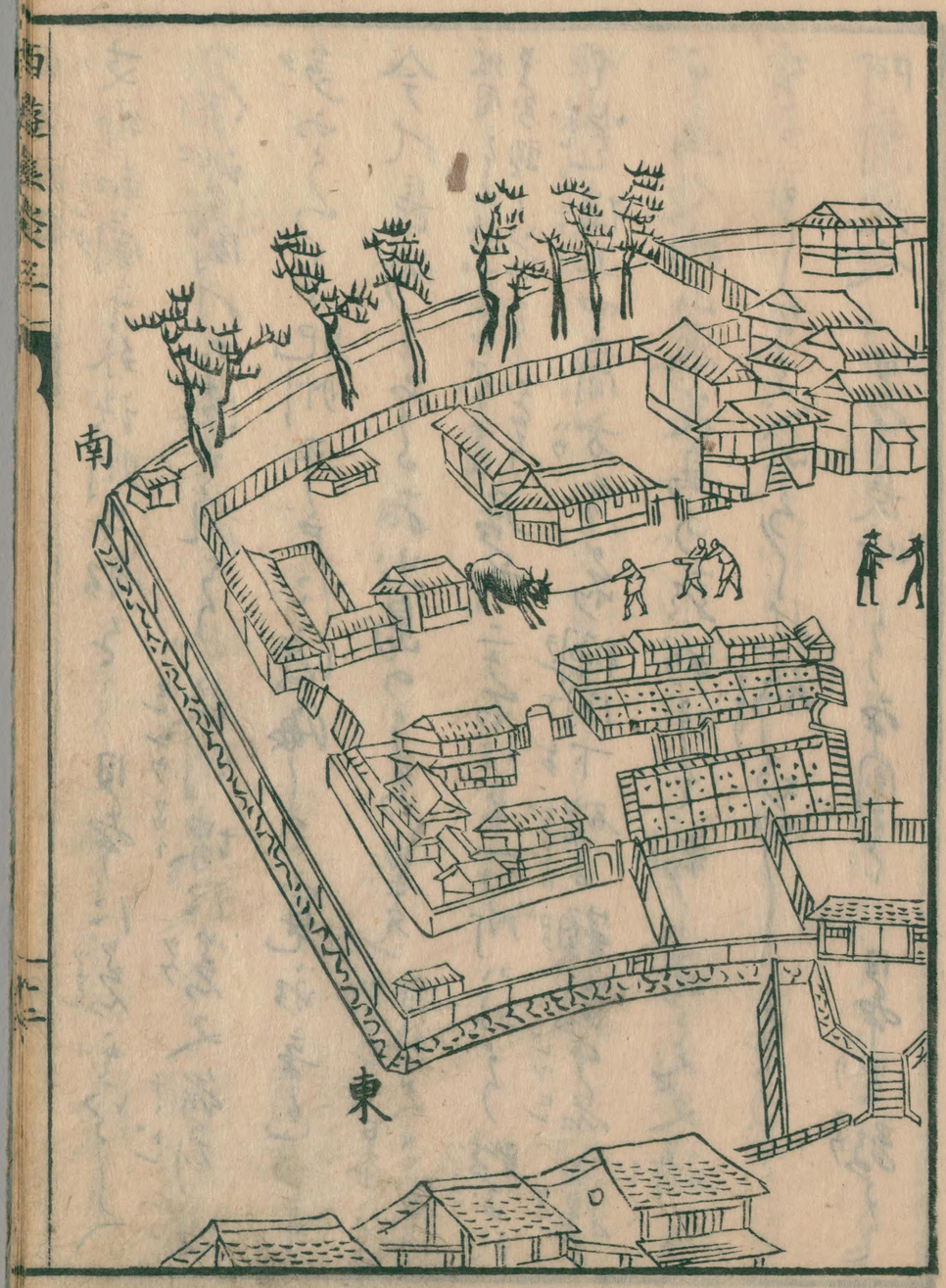
支那船ハ梅ヶ崎と云ふ所より船の
大きさ十五六間帆ハ布にあらず
藤を以て籠につくり内に隈
笹の葉を布錠を木を以て
製艫の方人物或ハ鷲の類
を彩緑を以て彩画事甚
俗なり其外を黒塗にして
四角なる形を白く画是ハ拂郎
機の形を画にかきたるものも





国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158　ガラス使用

支那和蘭（カラヲランダ）等外諸州の船を　日本に着（ツケル）せしめしに
ハ伊勢（イセ）國の大湊それより泉州堺（センシウサカイ）に着（ツケ）又筑前博（チクゼンハカ）
多（タ）あらつ迄肥州平戸に渡海して寛永辛巳の年
今の長崎となる初出島のうち加比丹（カビタン）
彼國にてハヨツプルホウフドヲ云
其名の頭にいくることばなり
居所二ケ所に出一ケ所ハ外（ソト）より晦子（ハシゴ）に
て梯（ボル）樓（ニカイ）上四五間方（ハウ）なる所欄間下（ラテシタ）硝子（ビイドロガラス）額数千品を掲（カケ）る
所画人物山水花鳥の類ありめしてあり動（ウゴ）くがごとく又椅子（イス）
をかずしてなしぐいなりの卓（カザリ）おのおのしてなり
阿蘭陀人　日本長崎より本國まで　日本里数（リスウ）

一萬三千里と云さしかたにてもあるときハ二千四五百里にて
ず此　日本よりハ西に当（アタリ）ておのおのよりあるゆへ故に月
おのおの来て生せしめ（アルイ）パン或ハ牛肉（キウニク）を以て食（シヨク）とし故に印度（インテ）
亜（ヤ）諸国と船を免ぐし交易（カウエキ）をなして第一乃國務（コクム）とし○

彼國の詞（コトバ）にハスワルトヨンゴと呼（ヨブ）ジャガタラの人なり　崑崙（クロンボウ）奴ハ
形ハ黒く熱国なり　阿蘭陀人の下奴（ゲヌ）となり来る生色黒（マツクロ）なり　ジャガタラハ赤道直下の国

はしばしいでも時にしたがひ黒を羅にぬりたるもし又黒うら
げるもあり夏月ハ躶(ハダカ)にして袈裟(ケサ)乃ぬきものと纏(ニトフ)あき
ベンガラ縞(ジマ)なり冬月ハ和蘭(オランダ)なり衣服をつけたるこれハ紅(オラ)
毛(ジダ)乃衣服のごとし羅紗花布(サラサ)にて作る頭に巾(キン)あり
世にクロンボウさらはしたるもの是なり
一タロスといふものなりこれを船中乃水主(カコ)にもの小事
船の中にてもしたるとき 水練(スイレン)をよくするものハ 此を此阿蘭
(クロンボウにあらず此一タロスなり)
陀本國乃人にて言語と和蘭乃辞(コトバ)なり顔色(ガンシヨク)ハ
白く髪(カミ)ハ菜色目ハ眸(ヒトミ)赤し十五六葉のもの

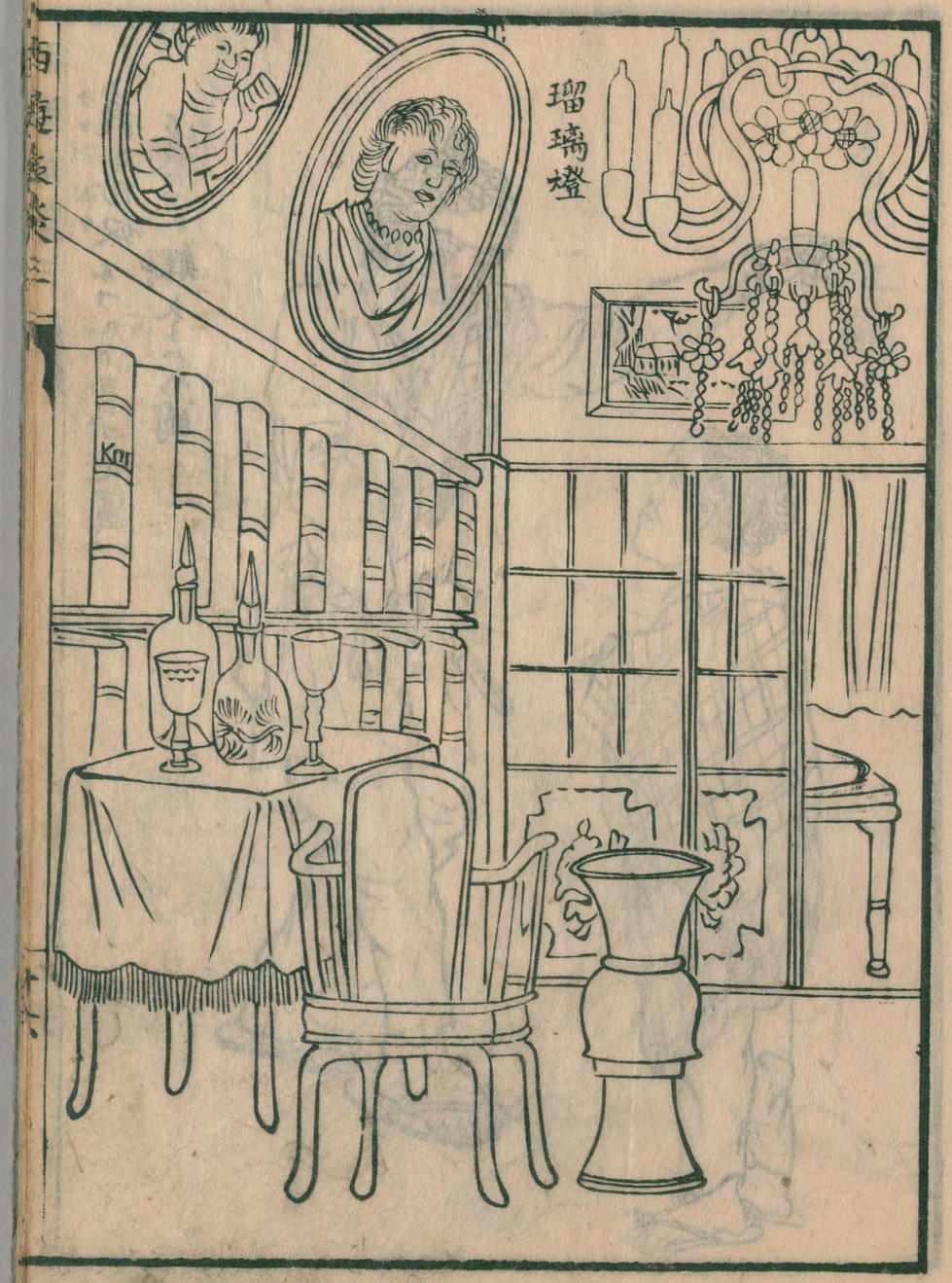
散髪(サンハツ)衣服(イフク)阿蘭陀乃如し此マタロス帆をしらにのぼるを
身にかつき事多くごとし
和蘭(オランダ)船ハ大サ四十間表乃方柳(シヽ)をはくる縄(スベ)にチヤン塗(ニ)
しを黒し艫(トモ)のしき家形(ヤカタウクリ)作内に入皆玻璃(ビイドロ)障(シヤウシ)を前り
天幕をかけり地毬(チキウ)天毬(テンキウ)をもて半(ナカバ)に楫(カヂ)を廻(メグラ)す車を
その左右に水壺(ツボ)をもて帆をしらに三所に建(タツ)ものごとく
下に入拂郎機(イシビヤ)二十五左右に向ひて朝暮一ツ宛(ヅヽ)なるの
又十二三もなるの事なり是を祝事(シクジ)になるの事にて
波國風(カノコクフウ)なり 船をしらべしあるなるの事にて長崎者乃杜撰(ヅザン)なるをもしらず 又洋中(イヤウ)に出(イデ)てハ

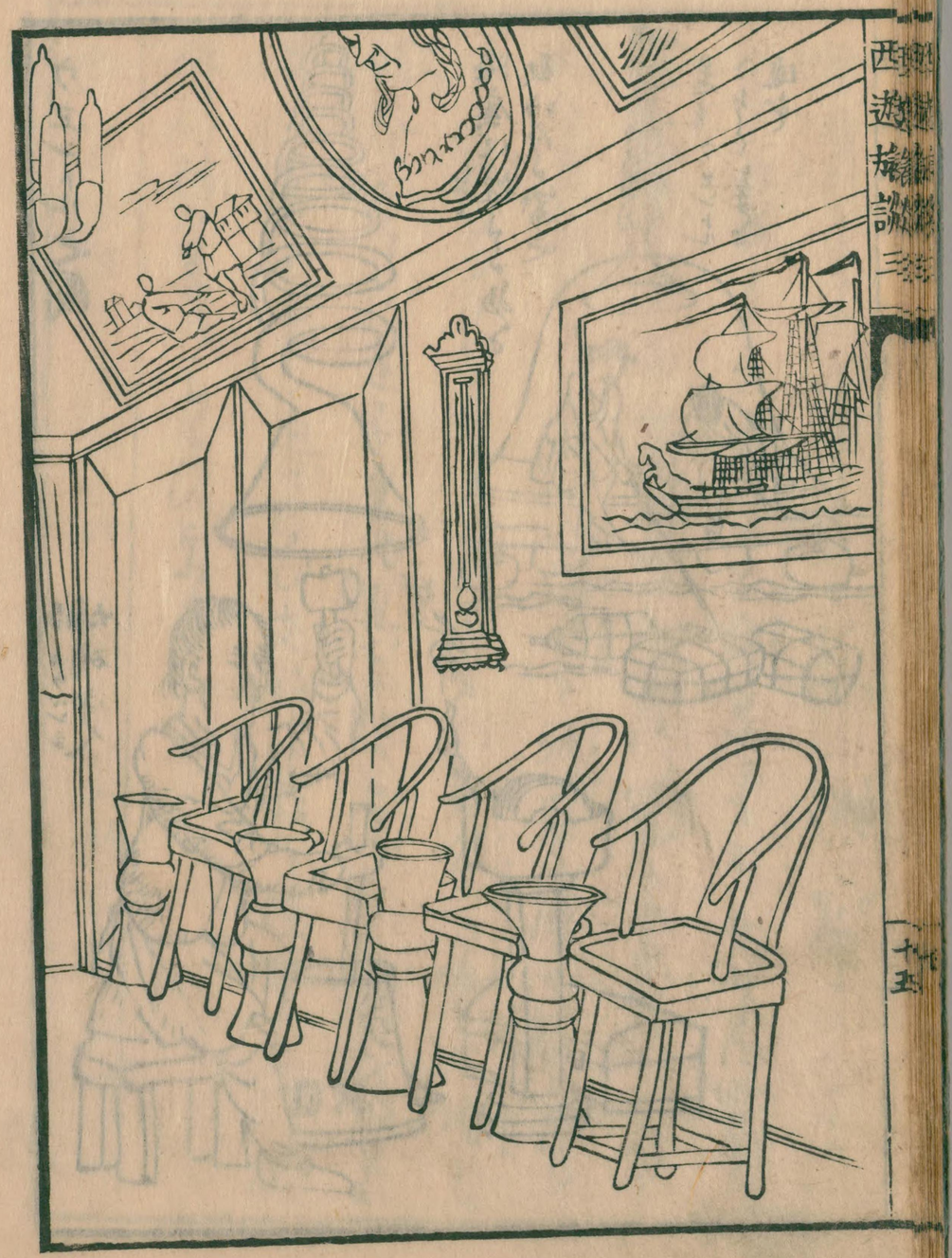
国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

要害にはなれば事もまたへしおほくは穢を殺じ其あるを事
なく此國まで火をうちて淨るなし其音山に鄕音く
霹靂のごとし荷物を船乃底の積竈も下にかけるとうへて
烟を出る所にて其下に入焰硝を貯ひ其を總て船をかやン
まで浮ばるなれば其どんをするもの壽命を減ず又燈に
消火もおこらず是も事の通ぜざれば故にウヱンドルと云
臭を裹して事を通ぜしむ支那の船乃粗なるを阿蘭
船の精ハ甚乃ちうひとなり

ウヱントル之圖

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用





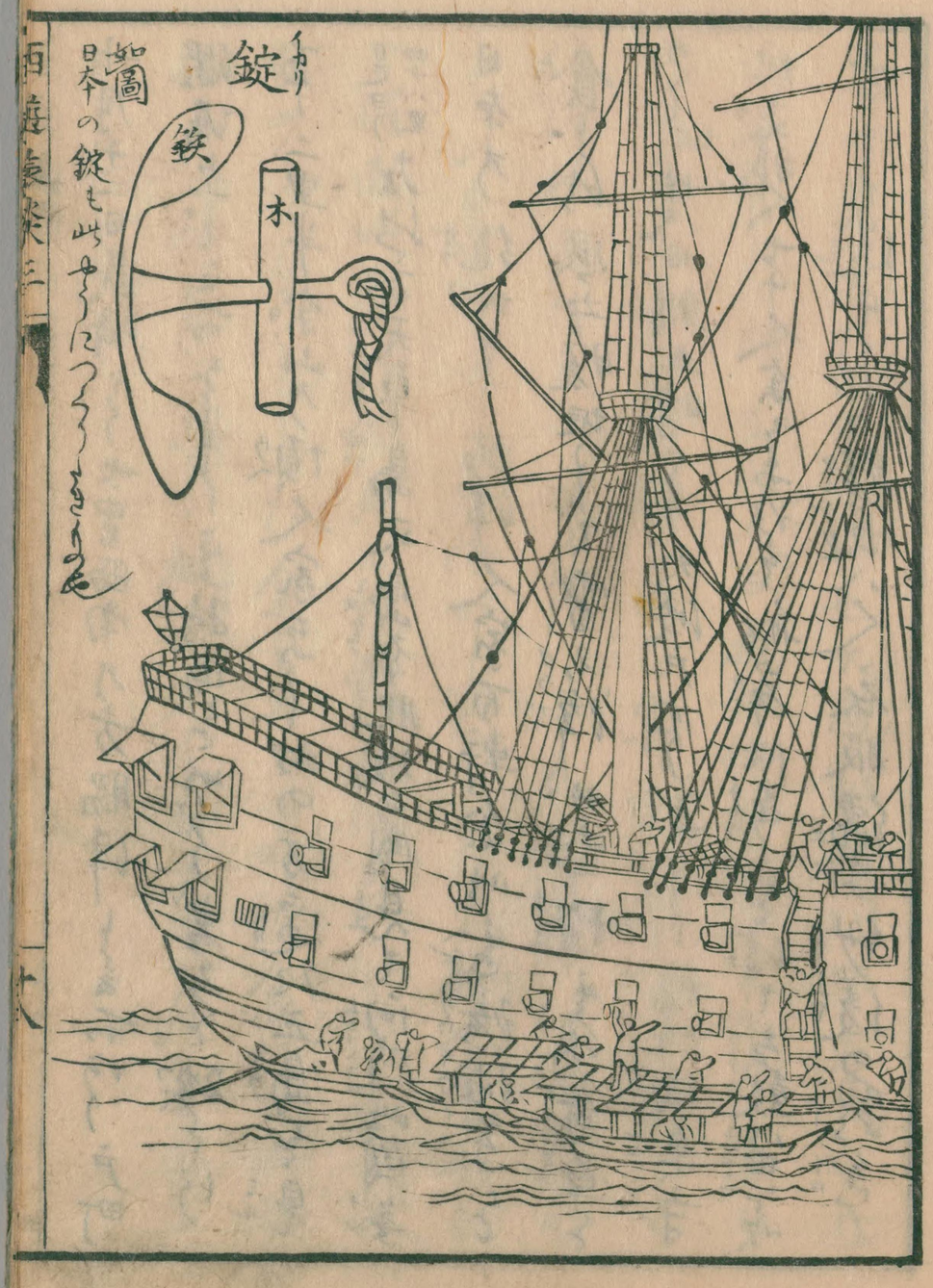
国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

崑崙奴（クロンボウ）スワルトヨンゴ之圖

夏月ハ躶（ハダカ）々ハ如圖

マタロス之圖

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

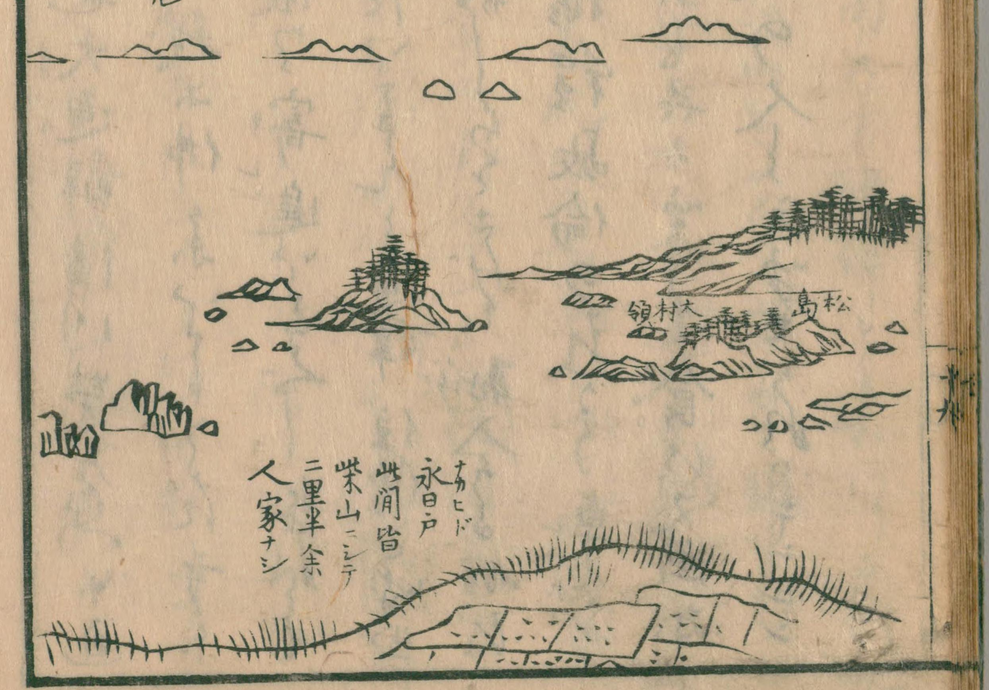


国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

十月十二日長崎より七里西南乃方脇津と云所より戸町
深堀なども云所をもとして其路山をめぐり岩石を踏くり
車二里半余山乃頂人家なし右の方遥に五島を見
是ヨリ四十八里左の方天草島又島原肥後の國見て向所此國無
日本乃絶地なり脇津人家百軒余此邊琉球芋を
食ひ風土暖地にして雪不降ザボン橙其外奇草を
ゑる」廿八日朝五時より大波戸より舟まく稲佐悟真寺
に支那人七十人余集ゐる船岸に舟を待て太鼓笛を吹
寺まで送ひ其ゆゑ夥長八人衣服繻子紗綾の類色々

黒其余下人ハ鼠色木綿也大通辭清川榮左衛門通
詞吉島左十郎支那人曰我ハ佛氣にしたるに寺も
大破の及ぶ夫故砂糖三俵ゆゑ寄進いたすべし然れども
住僧ハ身持不正ハ無用にいたさんと通辭住僧を呼出
し此事をかゝる老僧かしらをさげて恥入る船路
ハ程赤城費精湖周壬祿程敬倫の類なり卓子
盤四人ゆゑ席をさゞむ余も共に坐して食ひ又画物
描かれハ姓名を等る都の人と云ふ事なれハキンジン
キンジンと呼なり

長崎より腸津へ陸路
左右海をのぞむ其右乃
方を圖海上小島多し



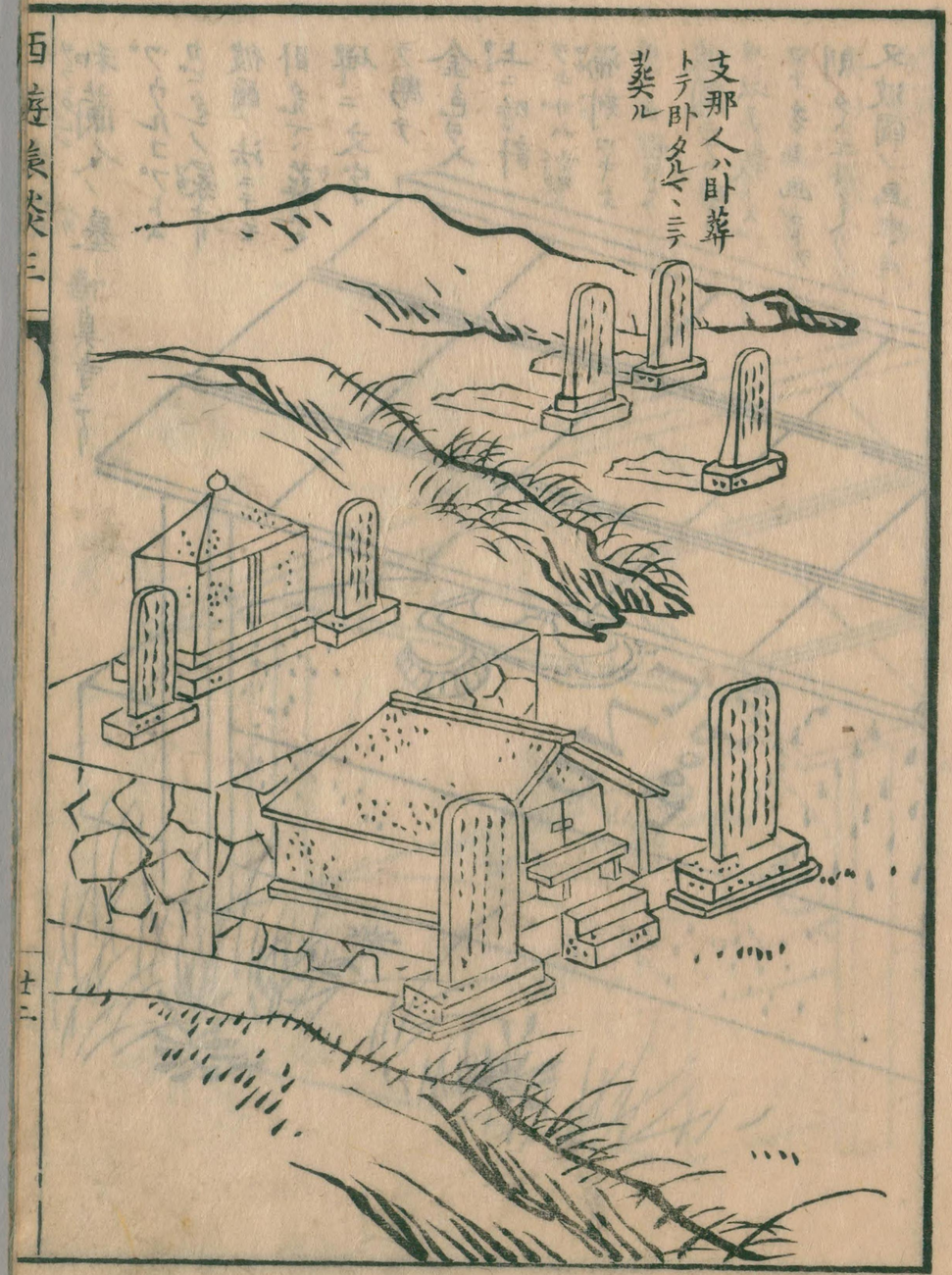
国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

長崎ヨリ七里
西ノ方脇津

此所ニ三崎観音アリ
長崎ノ者多ク詣ス

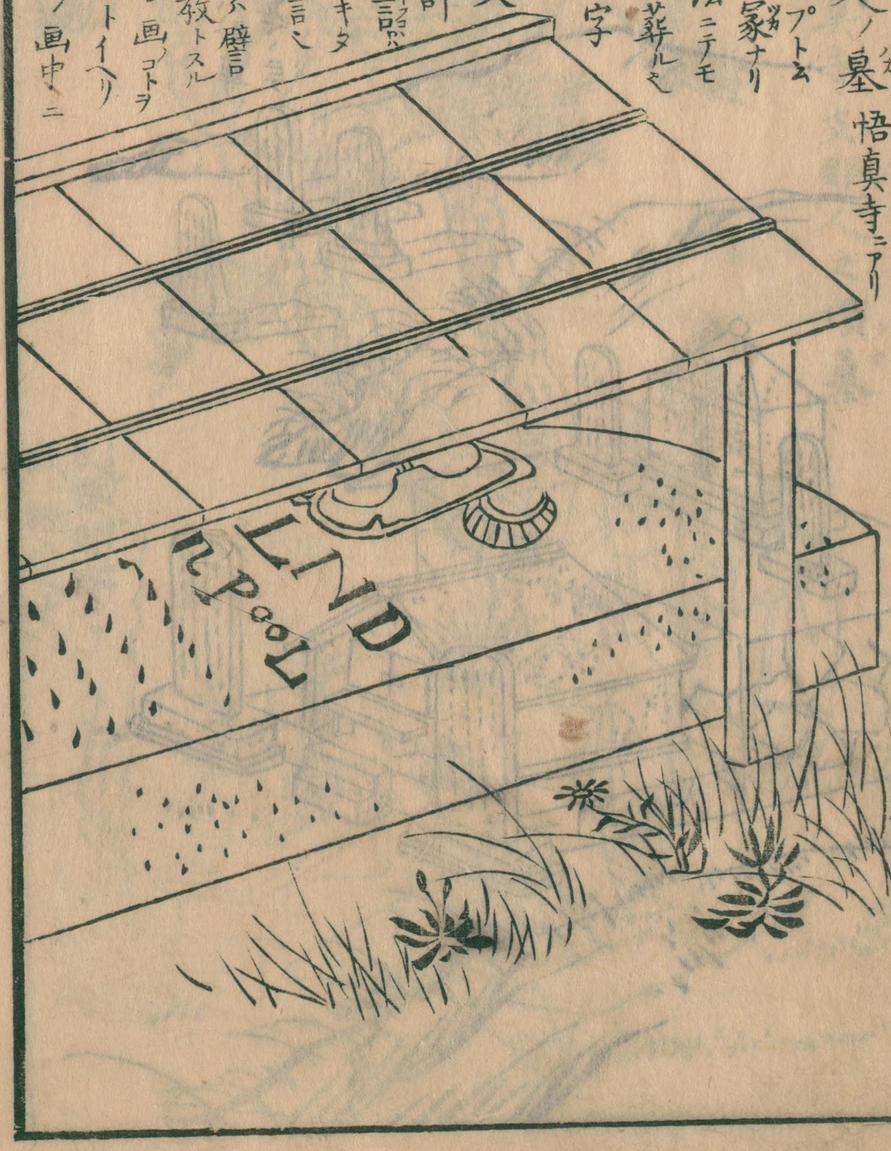
国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

悟真寺支那人之墳墓（タウジン　ツカ）

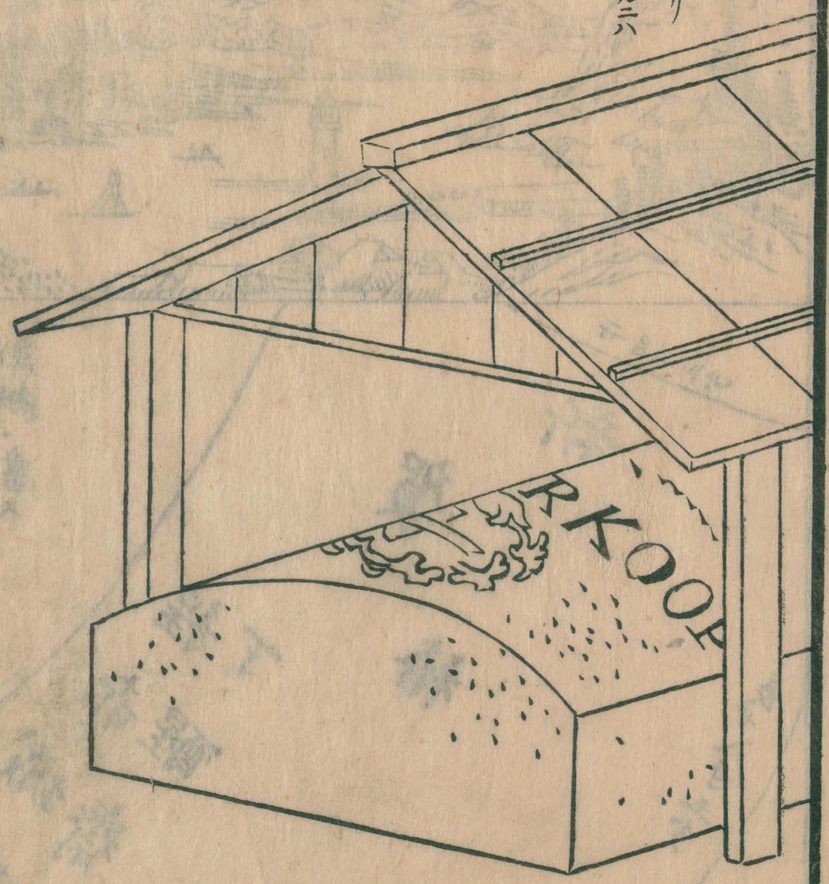


国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

和蘭人ノ墓悟真寺ニアリ
ヅウルコプトヽ
カビタンノ冢ナリ
彼國ノ法ニテモ
卧タルヽ葬ルヽ
碑ニ文字
ヲ彫テ
金色ヲ入
上ニ時計
ヲキザム言ハ
漏刻ツキタ
ルトヽ云譬ヽ
波國ニテハ譬
ヲ以テ教トスル
コト多シ画ノコトヲ
則タトエトイヘリ
又波國ノ画中ニ



両翼アル人物或ハ
異形ナル圖アリ皆
タトヘヲ画シタルモノナリ
カッテ羽ノアル人ノアルニハ
アラズ



国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

特 7
5
158

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

五十一　五冊之内

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用